

3ヶ月シリーズ講座

はじめての陶芸

講師 村上 光男 陶芸家

土くれをこねて焼くと器になる、そんな単純な作業がこのうえなく楽しいのはなぜでしょう。入れ物を作るだけならどんな形でもどんな色でも良さそうなのですが、太古の昔から人はさまざまな文様や美しい色、そして形を作り出してきました。美しいものを作り出すからこそ人間だとも言えます。さあ皆さんも挑戦してみましょ。自分が作った器や花瓶が身近にあるというのも嬉しいものですよ。(エプロンとタオルをお持ちください)

◇9月～11月 各日 18:30～20:00 定員 15名

9月9日(木) 「手びねりの基本」

陶芸と一口に言いますが、実は陶器と磁気の種類があって、この2種は材料が違います。陶器は土ものとして伊賀焼とか信楽焼に代表されるようにゴツゴツした感じです。磁気は長石や珪石を含むもので、基本真っ白で焼きが固く透明感があります。講座で作るのは陶器で、どんなに下手(?)でも、それなりのあじわいが出てくるので不思議です。にわか陶芸家になったようで気分がいいものです。一度挑戦してみませんか。

10月14日(木) 「絵付け」

前回作ったものに絵を描いてゆきます。絵の具のような呉須という青色の染料ですが、あまり深く考えずに思いのままに描いてゆけばそれはそれで良いのですが、やっぱりやるからには素敵にと細い筆と太い筆を使い分けて凝った絵付けをする方もいます。どんな柄にしようかと前もってプランを持っておくのと良いのでは? アクセント用に緑色やピンクもありますよ。

11月11日(木) 「打ち込み型を使って」

これはろくろを使わずに土を平らに伸ばして、石膏の型に張り付けてゆくととても簡単な方法です。土のあつさが均一になるので出来上がってからの手触りがとてもいいのです。型はいろいろと先生が用意をしてくださいますので、好みのものを選びましょう。自分で金属やプラスチックの変った形のものを用意するのもいいですね。(この回でつくった作品は後日お渡しすることになります)

参加費 (3回分) 会員 7,350円 ビジター 8,850円(材料費含む)

6ヶ月シリーズ講座

茶の湯 つれづれ嘯

講師 浅沼 宗博 今日庵名誉師範正教授・皇学館大学現代日本社会学部特別招聘教授

茶の湯の精神や点前の意義、人類とお茶との出会いは何時頃か等を考察し、お茶の心やその精神性について、みんなで考えてみましょう。日常生活に生かされるがたくさんあります。(季節、進み具合など諸事情により講義内容を変更することがあります)

◇'21.10月～'22.3月(6回講座) 各日 18:30～20:00 定員 20名

'21.10月21日(木) 「茶の湯の一生」 一口切の茶から名残の茶まで—
初夏に摘んで茶壺に寝かされていた新芽を11月初旬に初めて使います。これを口切といいます。この時、茶人たちは炬開きをします。茶人の正月です。炬開きの時期や由来、名残の茶等について考えてみましょう。

11月18日(木) 「茶の伝播と茶の湯の行為」 —チャドウとサドウ—
茶の木の原産地は、中国の南方、雲南省や湖南省だと云われ、陸路や海路を通して世界各国に出荷されたと云われています。世界各国では、茶のことをどのように発音しているか等について考えてみましょう。

12月16日(木) 「茶の湯のこころ」 —四規七則—
茶の湯の根本的な精神を四規「和敬清寂」といい、客と亭主の心得や茶室茶庭、道具に関する心得の教えです。また、七則は、茶の湯の原則的な教えです。鳥寡禪師の言葉「諸悪莫作・衆善奉行」等について考えてみましょう。

'22. 1月20日(木) 「点前の意義」 一点前とは—
「お点前」とは、どういう意味なのでしょう。点前の意味や意義について考え、点前ひとつひとつの所作の美しさや、その精神性について考えてみましょう。

2月17日(木) 「茶の歴史」 一人類とお茶との出会い—
人類とお茶との出会いはいつ頃だったのでしょうか。また、日本で初めてお茶を飲んだのは誰でしょうか。人物を中心に茶の歴史について考えてみましょう。

3月17日(木) 「おもてなしの心」 —一期一会—
一期一会とは「今に心を尽くすこと」だと思います。茶の湯の世界では、同じ人と何百回、何千回会いまえようとも、あたかも一生に一度の出逢いのごとく、心を尽くすことです。今という時は二度とない。「今」に心を尽くし、充実して、会い別れること。これが「おもてなしの心」です。みなで考えてみましょう。

参加費 (6回分) 会員 5,400円 ビジター 8,400円

6ヶ月シリーズ講座

茶の湯、初めての体験

講師 浅沼 宗博 今日庵名誉師範正教授・皇学館大学現代日本社会学部特別招聘教授

単にお茶を飲むだけの行為が芸術にまで高められた茶道、日本ならではのと思いませんか? 習ってみたいけど…難しい作法はあるし、着物は着られないと尻込みをしてしまいがちですね。「少しは触れておきたい」「日本人として、正しいお作法を身につけたい」など、茶道を習いはじめるときかけは人によって様々ですが、始めてみると思っていた以上に楽しくなるのも茶道の極意です。大丈夫、浅沼先生がその人に合わせて優しく教えてください。生活にリズムをつけるためにも、ぜひ始めてみませんか?

新型コロナウイルス感染防止対策のため、参加人数を制限させていただくか、申し込み状況によっては2班に分けさせていただきます。茶巾は各自購入していただき、袱紗なども含め持ち物の貸し借りをせず、マイ茶巾をお使いいただくこととなります。安心していただける新しいお稽古の在り方を検討しながら進めてまいりますので、講座推進については先生、スタッフの言葉に従っていただきますよう、お願いいたします。安全を最優先として、細心の注意を図り、万全の態勢で臨みたいと思いますので、どうかご理解とご協力をお願い申し上げます。

(茶巾を各自ご購入の上、袱紗など一式をお持ちください。また、先生のご都合により日時が変更になる場合がございます。)

◇'21.10月～'22.3月(6回講座) 各日 13:00～15:00 定員 16名

'21.10月23日(土) 「日常に生かされる茶の湯」① '22.1月29日(土) 「日常に生かされる茶の湯」④
11月27日(土) 「日常に生かされる茶の湯」② 2月26日(土) 「日常に生かされる茶の湯」⑤
12月18日(土) 「日常に生かされる茶の湯」③ 3月26日(土) 「日常に生かされる茶の湯」⑥

参加費 (6回分) 会員 8,400円 ビジター 11,400円(茶菓代・材料費含む)

6ヶ月シリーズ講座

伊勢根付づくりに挑戦!

講師 中川 忠峰 国際根付彫刻会伊勢支部長

伊勢みやげとして一世を風靡した「伊勢根付」。これは朝熊黄楊という伊勢にしかない材料に恵まれていたからです。手で撫でているうちに色はあめ色に変化し艶を増し、すべすべ感がなんともいえない癒しをもたらします。刃物の使い方を覚えるためのペンダントトップ作成から始めて、先生の丁寧な指導のもと根付け作成へと進んでいきます。 ※彫刻刀セットをお持ちください、お持ちでない方はご相談ください。

◇'21.10月～'22.3月(6回講座) 各日 18:30～20:30 定員 15名限定

'21.10月 8日(金) '22.1月14日(金)
11月12日(金) 2月18日(金) この回のみ第3金曜日
12月10日(金) 3月11日(金)

参加費 (6回分) 会員 10,200円 ビジター 13,200円(材料費含む) ※作品により追加費用をいただく場合があります。